カトリック
福岡教区報

ヨゼフ アベイヤ司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人　カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-4059
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　1部70円

2023年　四旬節メッセージ
「立ち帰る」と「派遣される」
福岡教区長　ヨゼフ・アベイヤ司教

イエスとのつながりを深めるために
（画：MINO CEREZO 神父）

「立ち帰る」

今年も四旬節が始まりました。灰の水曜日の典礼の中で預言者ヨエルのことばが朗読されました。「主は言われる。『今こそ、心からわたしに立ち帰れ』」（ヨエル書2・12）。

「主に立ち帰る」とは、言い換えれば、イエスとのつながりを深めることです。四旬節はそのためのときです。ことばを読んで黙想する時間を作ったり、ミサに与ったり、教会共同体の歩みに積極的に加わったり、様々な形で排除されている人々と関わることを通して、このイエスとのつながりが深まります。イエスは、みことば、感謝の祭儀、共同体、排除されている人々の内に私たちを待っておられます。主に立ち帰りましょう。

イエスとのつながりが深まっていけばいくほど、福音を証しし、伝えるために派遣されている自覚が強まるはずです。何もせずにはいられなくなるはずです。

派遣される

昨年の復活祭の祝日に、福岡教区宣教司牧方針の中に、いくつかの具体的なヒントが示されています。注意深く読み直していただきたいと思います。

【一人ひとりにできること】

これは、別に教会委員会などにかけなくても結構です。今日からでも実行できます。

【地区、教区でできること】

教会委員会や役員会、また、各活動グループで提案されていることを読み直して、話し合ってみればいいと思います。できるところからやっていけばいいでしょう。ほとんどの教会ではコロナ禍で制限されていた活動が再開されています。まだの教会は、そろそろ動いていただきたいと思います。

【教区でできること】

霊性を深めるため、福音宣教を創造的に推進するため、また、社会活動により積極的に取り組むために、様々な企画や諸団体の活動があります。

主に立ち帰って、主イエスが歩まれた道を歩んで行きたいと思います。「立ち帰る」と「派遣される」ことはつながっています。

ヨゼフ　アベイヤ

3月11日　東日本大震災から12年

あの未曾有の震災から12年。そして今、トルコ・シリアはそれ以上と言われる大規模地震に見舞われ、大勢の人々が苦難の中にある。

2019年11月に訪日したフランシスコ教皇は、東日本大震災被災者との集いで「1人で復興できる人はいません。…町の復興を助ける人だけでなく、展望と希望を回復させてくれる友人や兄弟姉妹との出会いが不可欠です」と語った。

私たちキリストに倣う者が、被災者の良き隣人となり、キリストが共にいてくださることを証しできますように。（3面に関連記事有り）

3月10日性虐待被害者のための祈りと償いの日

2016年、教皇フランシスコは、全世界の司教団に向け、「性虐待被害者のための祈りと償いの日」を設けるよう通達し、日本の司教団は呼びかけに応え、この日を「四旬節第2金曜日」と決定しました。今年は3月10日（金）となります。

性虐待被害者のための祈りと償いの日

右記QRコードも参照に、この日をすべてのキリスト者とともに、傷ついた被害者の方々の悲しみと苦しみを理解し、彼らのいやしと回復のために、いつくしみ深い神に祈り、また、全世界がこの困難な状況を乗り越えるために、神からの恵みと力づけを祈りましょう。

司教協議会メッセージ

※4面広告欄に福岡教区セクハラ対応窓口の案内を掲載しています。（4面右下）

3月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【教皇の意向】虐待の犠牲者

【日本の教会】性虐待被害者

福岡教区 全司祭集会
若者に「居場所」を

今年度最後の福岡教区全司祭集会が、1月31日（火）大名町カテドラルで開かれた。今回は、「青年司牧」と「未成年者と弱い立場におかれている成人の保護のためのガイドライン」について、学びと分かち合いがなされた。この日は青少年の守護聖人、聖ヨハネ・ボスコの祝日。青年司牧についてのアイディアを分かち合えたのは、聖霊の導きと思われる。聖ドン・ボスコの取り次ぎを願いながらの祈りで集会が始まった。

①午前の部は、京都教区の「望洋庵」について、担当司祭である菅原友明神父から話があった。故溝部脩（おさむ）司教（高松教区）が若者のために望洋庵を設立してから10周年。望洋庵が若者たち（信者も未洗者も）にとって人生の道を識別する大切な場であり、今までに様々な活動が行われ多くの実りがあったのは、多くの方々の継続的な関心と物心両面の支援があったからこそだと思われる。活動そのものは教区や小教区で行われているものとそれほど変わらないかもしれないが、望洋庵には「若者たちの居場所」があり、その居場所には御言葉に導かれる「分かち合いと識別」、「同年代の仲間たちとの交わり」そして「人の温もり」がある。

菅原友明神父

②午後の部は、京都教区長の大塚喜直司教と共に、未成年者と弱い立場におかれている人を、性虐待・性暴力から守るためのガイドラインについて全員で確認した。教区全体が弱い立場にいる人々のいのちを守るために、責任感を持って被害者に寄り添うこと、そして常に被害者の立場から考える視点が強調された。多くの人々が集まる教会だからこそ、「すべてのいのちを守るため」に意識を新たにする必要がある。

③続いて、福岡教区の青年司牧について、振り返りと分かち合いが行われた。振り返りを通して、教区の青年たちの率直な意見を参加者で共有することができた。青年たちはそれぞれ、信仰の仲間たちとのつながりや信仰の交わりに対する熱意と希望とを持っており、教会がそれらを実現する場となることを期待している。「仕事とプライベートと青年活動」という、三味一体（苦味、辛味、酸味）の忙しさの中で、どの時代よりも「霊的な飢え渇き」を感じて生きている今の若者たちに、私たちの教区は何が提供できるのだろうか。青年活動の拠点となる「青年たちの居場所」が求められている。

大塚喜直司教

教皇フランシスコは、若者は教会の未来ではなく「教会の今」と言う。そういう意味で青年司牧の在り方は、教会の現状を測る指標になる。心身ともに疲れ、飢え渇きを覚えている現代の若者は「本物」を求めている。これからの青年司牧には「渇くことのない水（ヨハネ4・14）」を与えるキリスト（本物）との出会いになることが期待され、具体的な方策が求められる。

時の話題
「シノドス」は今どげんなっとっと

先日ある方から尋ねられました。「シノドスは開幕ミサ以降、あんまり話題にならんごとあるけど、今どうなっとっとね」と。

「え！そうか、そうなんだ」。このままでは教皇様の意図する全教会参加、つまり信徒、修道者、司祭、司教がともに歩むシノドスにならないのではないかと思いました。福岡教区では、特別に福岡教区宣教司牧方針の策定過程をシノドスの準備の歩みとしたために歩みはともかく、各自がシノドスに参加しているという感覚を持てていないのかもしれません。

そこで参考までに、今回の第16回世界代表司教会議（シノドス）のこれまでの動きとこれからについて、少しおさらいをしてみたいと思いました。①まず、日本の各教区の意見はまとめられ、昨年8月に「日本の教会の回答書」として教皇庁シノドス事務局に提出されました。②その後10月に各司教協議会等からの回答が専門家によって整理され「大陸別シノドスのための作業文書」として発表されました。③続いて今年2月にはタイのバンコクでアジアの大陸別シノドスが開かれます。④そしていよいよ今年10月、「とともに歩む教会のため―交わり、参加、そして宣教」というテーマでシノドス第一会期が始まり、来年10月には第二会期が開催される予定です。今私たちにできることは、シノドスのテーマについて、グループ等で祈りのうちに分かち合いをしてシノドスに参加することでしょう。

なお各文書、資料はカトリック中央協議会のホームページ（左記QRコード）で公開されています。一度のぞいてみてはどうでしょうか。

福岡教区宣教司牧方針・準備委員会
笹丘教会　川原圭子

みちくさ

草木が芽吹き始める弥生3月に入った。四旬節の日々を慎んで過ごし、喜びの復活祭を迎える心の準備をする毎日である。新しい年のカレンダーにもなじみ始め、誰もが様々な用事を日々記入していることだろう▲カレンダーといえば、2011年にオーストリアに旅をしたおり、ウイーン美術史美術館を訪れて購入した絵画カレンダーがある。農民画家と呼ばれるピーテル・ブリューゲル（16世紀ネーデルラントの画家）の代表的な十数作品が「ブリューゲルの部屋」と名づけた展示室に展示されていた。それらの作品を印刷したカレンダーがそれで、以来、壁に掛けて毎月めくっては楽しんでいる▲12枚の絵の1つが有名な「バベルの塔」で、創世記11章（1～9）が題材である。天にも届く塔を作ろうとした人間の身勝手でごう慢な企てを心配した神が、彼らが意思疎通する言葉を混乱させ互いに理解できなくした物語である。実際に絵画「バベルの塔」を目にして、絵全体にただよう不穏な空気を感じ、ブリューゲルが生きた16世紀後半のネーデルラント（現在のオランダ・ベルギー・ルクセンブルク）が、宗教的にも政治的にも混乱状態だったことを連想した▲21世紀の現在に目を移すと、ロシアのウクライナ侵攻は終わりを見せるどころか2度目の四旬節に突入しており、ますます近隣諸国を混乱させ不穏な空気を世界中にただよわせている。悲観的に見守るだけでなく、愛による和解そして平和を真剣に願うと同時に、神と自分との和解をも切に祈りながら主のご復活を待ち望みたい。（G）

福岡教区のアプリができました。スマートフォンで教区情報を簡単に得ることができます。詳細は教区ホームページでご確認ください。

祝 司祭叙階 70・60・50・25周年

今年、司祭叙階70周年、60周年、50周年、25周年を迎える司祭たちに、言葉を寄せていただきました。

叙階70周年

山頭　原太郎神父（福岡教区司祭）

〝今年は70年目ですよ〟と知らされました。考えてみれば、1953年7月1日イタリアのトリノ市で司祭になっていたのでした。これはサレジオ会のおかげです。心からお礼を申し上げます。今は福岡教区の司祭の家でお世話になっております。教区の皆さまにお世話になり、毎朝ごミサを捧げておりますが、少しさみしい気分で生活しております。ここで改めてお礼申し上げます。

思い出すのは失敗の連続。とても公にする気になりません。おゆるしください。自分なりに努力したのですが…。

帰国して最初は宮崎市の日向学院で奉仕しました。13年ぐらいキリスト教を中心とした授業に全力投球でやったつもりでしたが、後で学院の雑誌を見たら、大淀川で魚釣りをしている写真1枚が掲載されているだけでガックリでした。第三者から見た姿なので仕方のないことです。

そんな哀れな私に、今でも親切にしてくれる当時の生徒たちも居て、本当に心身ともに励まされております。その当時の私を助け導いてくださったパウロ飯島幡志様のことは死んでも忘れられません。松下様（松下電器・故松下幸之助氏）の相談相手だったお方です。天国に私が行けたらぜひそこでお礼を申し上げようと思っております。

その他にも沢山の方々に助けて頂いたのに私はどこに行っても失敗ばかり。残念でなりません。キリスト教を布教する熱意は人一倍持っておりましたが、そのやり方が大きく間違っていました。ケンカしながら愛そのものである救い主イエス・キリストを伝えようとしていたのです。

福岡教区は昨年から宣教司牧に力を入れております。「全世界に伝えよ」と遺言された宿題を自分に与えられた使命としてくださるようお祈りして終わります。

叙階60周年

F・マネルバ神父（ミラノ外国宣教会司祭）

1993年に、富士吉田教会（山形県・横浜教区）から、30年ぶりに福岡教区に戻り、武雄教会、鹿島教会、幼稚園で働かせていただきました。信徒の皆さん、幼稚園の先生方のあたたかい歓迎や、神様の祝福のもとで様々な活動ができました。

アベイヤ司教様、宮原司教様、福岡教区司祭の方々、教区内で宣教なさっておられる宣教師の方々、信徒の皆様と幼稚園の先生方、保護者の皆様、さらに4人の孫たちを入園させてくださった住職、4人の子どもたちを入園させてくださった宮司に、心から感謝を捧げる次第です。

イエス様、マリア様のご保護のもとで、ロザリオの園（社会福祉法人・聖母の騎士会）で、最後まで頑張りたいと思います。お祈りください。

G・ピアッツィニ神父（ミラノ外国宣教会司祭）

60年間もの事を「400字くらいでお願いします」と言われてしまいました。そうなると、思い起こすのはやはり出発点についての事です。

朝の7時でした。100人の助祭の行列がミラノ大聖堂に入っていきました。そして式の中で呼ばれました。「Giuseppe Piazzini」。元気な声で「Adsum!（はい）」と答えました。そして司祭に叙階されました。1963年3月30日のことです。1年後の6月29日、ミラノ外国宣教会の本部で言われました。「Giuseppe Piazzim, 日本へ行きなさい」。応えは同じ、元気な声で「Adsum!」。

来日後、10カ所もの地方を転々としながら、元気に主の明るいメッセージを伝えてきました。司祭になって60年、司祭になったことを悔いたことは一度もありません。日本へでもどこへでも行って、出会う人々が笑顔になるように、その人の中に眠っている良さを引き出して周りの人々の恵みとなるように、皆が少しでも今日という日に喜びを味わいながら過ごせるように…これが小さい頃から今に続く私のささやかな務めです。

浦 俊雄　神父（福岡教区司祭）

宣教司牧の現場で、「働く若者のグループ（JOC＝ジョック）」にいつも寄り添い、ご自身も貧しく生きて福音を証して来られました。現在ご病気で療養中です。浦神父様のためにお祈りください。（編集部）

叙階50周年

M・ヒルデン神父（聖アウグスチノ会司祭）

1973年9月3日夜の羽田空港に到着した瞬間、25歳の私は赤ん坊に戻った。江戸川区のカトリック松江教会に向かう途中、ネオンサインを見て、全く読めない漢字の世界に囲まれているのに気づいた。非識字者となった私は、日本で挑戦に満ちた宣教師の新生活を始めた。涙を流しながら、2年間日本語学校に通っている間に少しずつ日本語を覚えていった。説教はまだできなかったが、日本語で共同司式のゴミサを捧げることができてとても嬉しかった。日本の文化と言葉を覚えるには時間と忍耐が必要だったが、日本人信者とともに日曜日の感謝の祭儀を捧げる時、幼児神父の私は嬉しくなり不安と苦労が消えていった。日曜日に、祈りの共同体が信仰と愛で私に示した応援や励まし、そしてお祈りを通して宣教師として歩む力と恵みを頂いた。最初に出会った教会の共同体から頂いた多くの恵みを、50年後の今も深く感謝している。

日本の教会で奉仕する中で、何回も問われてきたことが二つある。「なぜ神父になったのか」と「なぜ日本に来たのか」。確かな答えはない。召命の恵みは人間の考えでは良く分からない神秘だから。それ以外の説明になる理由はないと思う。教会に仕えなさいという神様の沈黙の呼びかけだと今は理解できるようになった。叙階された25歳のアメリカ人の新司祭が日本で司牧するようになったのも、神様の呼びかけの恵みだと確信している。お米と魚が好物ではなかった司祭が、日本へ導かれたのは神様の愛のいたずらかもしれない。自分が修練期中、長崎で宣教する神父に出会い、聖霊の息吹で、この私、でっかい神父が日本の教会へ飛ばされた。この不思議なお恵みに毎日感謝している。

叙階25周年

イム・ドンビン神父（福岡教区司祭）

司祭叙階以来25年が経ったことを三位一体の神様と皆さんに感謝いたします。

2015年頃に来日して約8年になります。言い訳になりますが、少し年齢を経て日本語の勉強を始めたせいか、まだ上手くなりません。もし変な日本語が聞こえたら「ダメだな」でなくご理解をお願いします。司祭として日本の宣教司牧のためには日本語が流ちょうでなければと思っていますし、他にも目的があるので勉強はずっと続けます。

日本に来てから霊的には一人暮らしではないと思いますが、物理的には一人暮らしです。そのため体に問題が起きたら皆さんにご迷惑をかけるので、今後の司牧のためにタバコとお酒をやめました。飲み友達にはすみませんが、こうすればもっと元気に地上の教会でも長く信者さんと共にいられると思ったからです。

司祭の存在は神の愛の現存であり、神様が私たちを愛しておられる、そのしるしであると信じています。日本語が流ちょうにできなくても、皆さんと共に集い、毎日聖なるミサを捧げること、それだけでも本当に幸いだと感じています。

司祭叙階25年と、70年・60年・50年という素晴らしい記念を神様に感謝しながらも、今は司祭が少ないので、新しく働いてくれる司祭を送ってくださるよう祈り求めたいと思います。三位一体の神様の愛と導きの内に皆さんとの出会いを大切にして、これからも頑張ります。

訃報

ペトロ　田中　利幸　氏

田中重治神父（大牟田教会主任）のご尊父が、2月15日に帰天されました。享年80。

経済問題評議会　教区財政への協力を

現在、福岡教区では財政見直しが進められています。既に司教様からの呼びかけの文書が届き、2月から3月にかけて、各地区で説明会が予定されています。今回は、多岐にわたる財政の見直しの中から、2点に絞って説明します。

一つ目は、維持費や献金を基に算出される教区分担金の見直しです。今回の見直しで、分担金の割合が、現在の15％から30％に変更になります。また、司祭給与は、今年の4月から教区が支払うことになりました。15％の増加分は、教区が支払う司祭の給与や小教区を超えた教区の事業などに充てられます。高齢化などにより小教区運営の基本財源である維持費の額は減少しつつあります。収入のある信徒は、是非、維持費の納付にご協力ください。尚、維持費は信徒が自主的に額を決めて納付していますが、収入の3％を目安とすることになっています（教区ハンドブックP.6）。

二つ目は小教区や墓地会計の預貯金資産運用についてです。現在、小教区は維持費や積立金などを銀行に預けていますが、その資金のうち当面利用計画のないものを教区に預けていただき、教区で専門家とも相談しながら一括して運用し、その運用益を教区全体の財源として活用するというものです。預かった資金については、投機的なものには投資しないなど、安定運用を基本とし、教区の司教顧問会が責任をもって運用します。預けた資金が小教区で必要になった場合は、教区本部に申し出て払い戻しを行い、元本は教区が保障します。

財政の基本は、「入るを計って、出るを制する」という収入と支出のバランスです。このことは、一軒の家でも、会社でも、教会でも同じです。また個別に、バラバラで、対応するより、一元的に、総合的に、かつ専門的に対処する方が的確であり、有効です。

このような見直しを実施して、これまでの100年間に先輩が残された信仰と資産を活かし、充実・発展させて行くことが、今日の私たちの責務と考えます。

報告＝経済問題評議会
浄水通教会　石井　拓

不動産全般／売買・賃貸・管理
なんでもお問い合わせください
㈱ジャパン・スマイルか
代表取締役　マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044 福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092－761－8800
http://www.iruka-japan.com/

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社　森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811－7265

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は
メモリードホール
薬院・油山・野芥・小田部・今宿
馬出・南福岡・大野城・飯塚
市民葬儀・法事相談センター
六本松店・赤坂店
0120-45-1616

別れ・出逢い・旅立ち
草苑〔SOU-EN〕
カトリックのご葬儀
互助会制度もご利用できます。
木下株式会社
TEL 092－526－5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

キリスト教一致祈禱会

遠山　満（みたる）　神父
（教区エキュメニズム部門・担当
聖アウグスチノ会・笹丘教会主任）

宗派を越え一堂に座して（右・遠山神父）

冷たい雨の降る中、福岡キリスト教一致祈祷会が、西南バプテスト教会にて、1月22日（日）午後4時より行われた。今年も、昨年に続き人数制限を行い、主にオンラインで参加して頂く形となった。

共同司式として参加されたのは5人。聖公会、バプテスト教会、日本基督教団、カトリック教会の2人の聖職者の方々であった。そしてカトリック教会の司祭が、説教を担当した。

参加者の一人からは、「事前に主任司祭から『プロテスタントなどの方々とは、同じ一つの洗礼で繋がっている兄弟姉妹なのですよ』と聴かされたことが目から鱗だったので、ワクワク期待して行った。各派の牧師や神父が一列になって入堂され、様々な祭服が素敵だった。説教者が最後に、『皆が一つになって善を行い、正義を求めて参りましょう』と言われた時には本当に心を打たれた。先入観や偏見を乗り越えて、私たちは善に向かって共に進んでいかなければならない。分かれていることが不思議なぐらい、各教派の皆さんと一つの心になって平和の為に祈ることができた」とコメントがあった。

最後に、主司式を務められたバプテスト教会の三田輝雄牧師は、次のような言葉で、式を締めくくられた。「新しい年が始まりましたが、コロナの蔓延や、争い、差別や貧困のある所に、キリストの憐れみと平和がありますように、教団を超えてキリストにあって一つとなって、共に祈り、協力し合っていきたいと思います。本日は、本当に有り難うございました」。

東日本大震災から12年
～祈りのリレー～

撮影：岡崎真一
ろうそくの灯と祈りで満たされる聖堂

去る2月11日（土）夕刻、福岡カトリック神学院聖堂でテゼ共同体の歌を用いた夕の祈りが行われた。この日は午後から「ネットワーク・ミーティングin福岡」が開催されており、「つながる」というテーマで全国から集まった青年たちがともに祈りを捧げた。この祈りの意向に「東日本大震災のための祈り」を加えていただいた。震災の祈りのリレーを続けて143か月目にあたるこの日、青年たちと祈りを共にできたことをうれしく思う。

まもなく東日本大震災から「144か月」を迎える。毎月11日を「月命日」として思い起こしてきた。震災の記憶が薄れかけていたところ、トルコとシリアで大震災が起こった。犠牲者が五万人を超えるだろうといわれている。

大自然に対して人間は小さな存在。だからこそ助け合っていきたい。そのために祈り続けてゆきたい。

聖パウロ修道会　Br.阿部光一

知りたい！ 福岡教区内の修道会 宣教会⑪

福岡教区には現在30の修道会・宣教会から司祭・修道士・修道女が派遣され、それぞれのカリスマで働いておられます。

昨春より紹介している、その修道会や宣教会。第11回は、聖母訪問会です。

聖母訪問会

パリ外国宣教会の宣教師であり訪問童貞会（現聖母訪問会）の創立者であるアルベルト・ブルトン師は、1931年に福岡教区の司教として着座し（1931年～1941年）、それに伴い訪問童貞会も福岡教区内で活動を始めました。私たちが生活している新田原は、大正時代に長崎、五島、平戸の信徒たちが移住して開墾した土地です。昭和に入り、重労働のために子どもの世話や教育にまで手が回らない状況や環境衛生面の不備などが深刻化していました。ブルトン司教は米国で、“牧者のいない羊”のような日本人移民の窮状を目の当たりにして活動した経験から、新田原の状況がかの地と同じように深刻で、支援が必要であると察したのでしょう。訪問童貞会の会員をこの地に派遣してセツルメント（※）を設け、また託児所や浴場もつくり、会員たちは人々と共に生活しました。その後セツルメントは診療所になり、また収容施設のないまま放置された結核患者が急増する中、その必要に応えてサナトリウムに改められ、後年 新田原聖母病院（1993年医療法人「敬愛会」に移管）となり、会員たちは医師や看護師、薬剤師、レントゲン技師、調理師として活動しました。現在の新田原修道院では高齢や病気の会員が祈りを中心にした奉献生活をしていますが、私たちは創立当初から、創立者を通して会員に示された神の心を受け止め、特に“最も小さい者一人（マタイ25・31～46）”に対し、使徒活動を通して必要な奉仕をしてきました。

姉妹たちと捧げるミサ
（司式：井手公平神父・新田原教会主任）

回勅『ラウダート・シ』の中で教皇は、貧しい人々と地球の脆弱性との間にある密接な関わり（LS16）と環境と社会の悪化は、地球の最も弱い人々に影響する（LS48）ことを説明し、大地の叫びと貧しい人々の叫びの双方に耳を傾ける（LS49）ことを呼びかけられました。これによって本会の霊性にある“小さくされた人々”への奉仕の理解が全被造界にまで広げられました。そして使徒活動のみならず生活全体を通して、“すべてのいのち”を大切にする視点に立った生き方ができるように努めています。（※「セツルメント」とは、都市の比較的貧しい地域で、住民の生活や文化の向上のために援助をする運動や活動、施設、事業などのこと）

聖母訪問会　新田原修道院　院長 Sr.松坂　裕子

ペシャワール会の今ー前編
「苦しんでいる人がいたら、放っておけない」
ーー中村哲先生の意志を継いでー

NGO（非政府組織）「ペシャワール会」（福岡市）やPMS（平和医療団・日本）を立ち上げ、パキスタンやアフガニスタンで人道支援活動を繰り広げていた医師の中村哲さん（中学生の時プロテスタント教会で受洗）が2019年12月4日、現地で武装した何者かに銃撃、殺害されて3年余りが経った今、中村医師と一緒に活動してきたPMS支援室室長で看護師の藤田千代子さんがさまざまな体験談を話した。

前編では、藤田さんがペシャワール地域で活動を始めたきっかけや、活動内容などの話を紹介する。

現地のスタッフに指導する藤田さん

「来る時が来た」

1984年からアフガニスタンの国境近くに位置しているパキスタンのペシャワールという都市を拠点に、医療などの支援に身を捧げた中村哲医師（享年73）。その死去の一報を知らされた当時の心境を打ち明けたのは、中村医師と30年以上も共に活動してきた看護師の藤田千代子さん。

藤田さんは1988年、働いていた病院で中村医師によるハンセン病の講演を聴いた。「ハンセン病は、早く見つければ手足等の変形を残さずに治療は可能だが、イスラム教では女性は肌を見せてはいけないため早期発見が難しい。そこで中村先生が女性の看護師を必要としていることが分かった」と振り返る。

そして1990年、藤田さんは自ら希望し、ペシャワールの病院に派遣された。最初は、日本と全く違う文化や生活習慣のある国で戸惑ったという。「日本では、薬の量は正確に測るのが当然。しかし、現地の人たちは『だいたいこの位』と、準備をしていたので困っていた」と、藤田さんが現地の医療従事者を指導していた思い出を話した。それでも中村医師から教わったのは「私たちは、この人たちが見たことも聞いたこともないようなことをやろうとしているのだから、彼らが慣れるまで怒らずに見守ってあげて」。そして「『アーシタ、アーシタ（現地の言葉で「ゆっくり、ゆっくり」の意）』が口癖だった」と語る。

パキスタンの北部や隣国アフガニスタン東南部では、ハンセン病の他、下痢や栄養失調などを患う人たちが、干ばつなどのために年々増加する中、中村医師（PMS）は、医療支援活動を需要に合わせながら拡大していった。灌漑水利事業にも着手した。また、患者の中には、タリバンや米軍の軍事活動などを受け、アフガニスタンのジャララバードやその周辺から避難してきた難民もいる。

藤田さんはこのような活動の中で「中村先生から教わった讃美歌や聖書の言葉は、私の現地活動で活かされているし、支えになっている」と話す。

戦争や政権交代の中で危険度は増していったが中村医師は現地から離れなかった。そして3年前のある朝、命は断ち切られた。

※藤田さんのインタビュー動画などが下記QRコードからご覧になれます。

ーペシャワール会とPMSー

ペシャワール会は1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成された国際NGO（NPO）団体で、PMS（略：Peace（Japan）Medical Services）は、総院長の中村哲医師率いる現地事業体。

PMSは医療団体であるが、病気の背景には慢性の食糧不足と栄養失調があることから、干ばつにより沙漠化した農地の回復が急務だと判断し、今なお進行する大干ばつのなか灌漑水利事業に重きを置いている。

同会HP
QRコード

BOOK 読みは専科

☆憲法主義ー条文には書かれていない本質
内山奈月・南野森（しげる）（著）

もしも国民的アイドルが、日本国憲法を本気で学んだら…。憲法を暗唱するアイドルと気鋭の憲法学者による1億人のための憲法講義。

本格的な内容と読みやすさで、専門家からも高い評価を得た憲法入門書。「人権論」から「統治機構論」へと展開する本書の内容は本格的で、「表現の自由」が憲法全体に果たす役割の重さには驚きを禁じえない。（共著の南野森氏は九州大学法学部教授で西新教会所属）

PHP研究所発行
税込価格1320円

故人の服、思い出の服を
世界で一つのテディベアに
メモリーベア工房
下記のホームページから、またはメールでお気軽に何でもお問い合わせください。
https://memory-bear.work/
メールinfo@memory-bear.work

社会医療法人 雪の聖母会

聖マリア病院
〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422
TEL.0942(35)3322　FAX.0942(34)3115
聖マリアヘルスケアセンター
〒830-0047 福岡県久留米市津福本町448番5
TEL.0942(35)5522　FAX.0942(34)3306
信仰や理念を共有できる医師、看護師の皆さん
ご一緒に働いてみませんか
URL：http://www.st-mary-med.or.jp/

FPC 福岡プライマリケア訪問看護ステーション
自宅で療養されている方、在宅で看取りたい方、精神障害の方など、病気について、介護方法について専門的指導や援助が必要な方はご相談ください。
費用は医療、介護保険でのご利用になります。
春日市天神山7-91　TEL&FAX 092-517-6313
福岡プライマリケア株式会社　代表：エリザベト熊谷

サンパウロ
福岡宣教センター
営業時間：
10：00～18：00（日曜日～16：00）
定休日：火曜日、祝祭日
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26
tel. 092-721-2032 ／fax. 092-739-3930
E-mail: fukuoka@sanpaolo.or.jp
レジナ
アポストロールム

年間目標　出向いて行く教会となる

―みことばと共に 四旬節の祈りの巡礼―

四旬節の間、それぞれの教会を巡りながら、静寂の中で主日の福音を深めましょう。

＜スケジュール＞ ※ 毎回 10 時と 19 時の 2 回

2 月 28 日（火）光丘教会　「イエスの試み」
3 月　7 日（火）箱崎教会　「イエスの変容」
3 月 14 日（火）笹丘教会　「サマリアの女性」
3 月 21 日（火）大名町教会　「生まれつきの盲人」
3 月 28 日（火）古賀教会　「ラザロのよみがえり」
内　容：聖書の朗読・黙想・思いめぐらし
　　テゼの祈りと歌（60 分）
協　力：Br. 阿部光一（聖パウロ修道会）
主　催：福岡教区　宣教・養成委員会
問合せ：080・9101・8717（申し込み不要）

聖マリア学院大学 公開講座のお知らせ

【第 5 回公開講座】
テーマ：コロナ禍をよりよく生きる
日　時：3 月 18 日（土）13:30～15:00
講　師：ピーター・トアイ神父（箱崎教会協働）
場　所：ロイ･アカデミアホール（聖マリア学院大学7号館1F）

・第 5 回公開講座は 会場参加のみとなります。（オンライン配信はありません）
・ピーター神父は、ローマ（現滞在先）からオンラインで話されます。

※詳細は教区ホームページ、または右記 QR コードから

―みことばのお弁当―

日　時：3 月 23 日（木）10 時～13 時
内　容：カナンの女性
同伴者：レナト・フィリピーニ神父
　　（宣教・養成委員会　信徒養成担当）
場　所：大濠カトリック会館
　　福岡市中央区大濠 1-7-14（大濠聖母幼稚園隣）
電　話：080・9101・8717（申し込み不要）

※お弁当は各自持参で

福岡教区広報室アドレス
http://fukuoka.catholic.jp
E-mail:cdf-kouhou@nifty.com

案　内　板　　会合と催し

福岡カトリック神学院　一般公開講座

2023 年度前期（4 月～ 7 月）
「キリスト教概論Ⅰ」

福岡カトリック神学院

今回の講座は、キリスト教をわかりやすく概観する入門、基礎編です。
キリスト教についてまだほとんど知らない方々を対象としますが、詳しく知りたい方々も参加できます。

※詳細は右記 QR コード、または教区ホームページからご確認ください。

真命山諸宗教対話センター　- 祈りの集い -

年間テーマ：聖性への招き
日　　時：3月9日（木）10時～15時
内　　容：十字架の聖パウロ
指 導 者：S.ソットコルノラ神父（聖ザベリオ宣教会）
次　　回：4月13日（木）
内　　容：マグダラの聖マリア
指 導 者：Sr. マリア・デ・ジョルジ
問合わせ先：真命山諸宗教対話センター
☎0968・85・3100 FAX 0968・85・3186
熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7
E-mail　shinmeizan@gmail.com
☆個人またはグループでの黙想会、研修会も歓迎いたします（要予約）

３月のこよみ

4日（土）　手取教会司牧訪問（～５日）
5日（日）　四旬節第２主日　祭壇奉仕者選任式・手取教会
7日（火）　教区顧問会
　†ミカエル平田寛（2002年 門司教会）
9日（木）　常任司教委員会
　†W.カリー（2012年 手取教会）
　†ヨゼフ増田祐志
10日（金）　性虐待被害者のための祈りと償いの日
11日（土）　人吉教会司牧訪問（～12日）
　†L.グリッフィス（2013年 菊池教会）
12日（日）　四旬節第３主日
13日（月）　†M.ラバルタ（2015年 天神町教会）
17日（金）　日本の信徒発見の聖母（長崎の信徒発見記念日）
　久留米信愛短大・卒業式
19日（日）　四旬節第４主日
　大名町教会・堅信式・16時 英語ミサ
　†ヨゼフ牧山田一（2018年）
20日（月）　聖ヨセフ　アベイヤ司教霊名の祝日
　厳律シトー会（トラピスチヌ）・終生誓願式
　（伊万里の聖母修道院）
25日（土）　神のお告げ
　カノッサ修道女会（大牟田）・終生誓願式
26日（日）　四旬節第５主日　荒尾教会司牧訪問
　北九州地区宣教司牧評議会
27日（月）　†L.ベーカー（2019年）
30日（木）　†V.チェリッツァ（2005年 唐津教会）
31日（金）　（宗）幼稚園新任教職員辞令交付式・研修会
【４月】
1日（土）　山鹿教会司牧訪問
　†J.クレハン（2008年 荒尾教会）
2日（日）　受難の主日（枝の主日）　菊池教会司牧訪問
■ゴチックは司教日程

内容詳細は問合せ先にお尋ねください。
感染症の状況によっては開催が中止となる場合もあります。

◆福　岡

■震災のための祈りのリレー　144ヶ月目〔日時〕3月11日（土）ミサなし／夕の祈り16時半～〔場所〕西新教会〔問合せ先〕☎070・2820・9613 Br.阿部（パウロ会）

■在世フランシスコ会〔日時〕3月11日（土）9時～〔場所〕高宮教会〔問合せ先〕☎080・5266・9048秦

■福岡チェナクルム〔日時〕3月15日（水）10時～〔場所〕大楠教会〔問合せ先〕☎090・5021・5907菊池

■師イエス祈り会〔日時〕3月17日（金）10時ミサ後〔場所〕高宮教会・小聖堂〔問合せ先〕☎090・7468・3631西田

■福岡ホスピスの会「がん」を通し人生を語る会・がん哲学外来「ぬくみカフェ」3月25日（土）14時～16時半〔場所〕サンパウロ福岡宣教センター3階〔問合せ先〕☎090・1162・6395柴田

■カトリック大名町教会「キリスト教講座」第Ⅱ期テーマ「キリストとの出会い」全15回〔日時〕毎週土曜14時～16時〔場所〕大名町教会1階講堂〔問合せ先〕☎092・741・3687大名町教会

■聖霊による刷新・福岡祈りの集い〔日時〕毎週月曜日11時～12時30分〔場所〕大名町教会1階講堂〔問合せ先〕092・521・2503蓮尾

■美野島司牧センター
○ホームレスの方に温かい食事と衣類　毎週火曜日10時
○ホームレス支援炊出し調理　毎週金曜日14時（3月2週目まで大名町教会にてスープの会と協働）
夜回り　20時から
○路上からアパートに入居した方を訪問　第3土曜日14時〔問合せ先〕☎092・431・1419コース・マルセル神父

■セコの会〔日時〕毎週水曜日10時30分～16時〔場所〕福岡市南区塩原4丁目25 高木橋横の日本家屋〔問合せ先〕☎090・7927・3636永田

■聖体といやしの家
ご聖体のある家でミサと礼拝のある今を過ごしてみませんか？必要があればシスターや社会福祉士が同伴できます。〔問合せ先〕☎080・4735・6971礼拝会

◆北九州

■北九州召命を共に祈る会〔日時〕3月9日（木）14時～〔場所〕小倉教会〔内容〕ジョン・ウォンチョル神父（小倉教会助任）司式によるミサ〔問合せ先〕☎094・949・2499・905藤井

◆熊　本

■熊本地区召命を共に祈る会〔日時〕3月20日（月）9時50分～ロザリオ・召命祈願ミサ〔場所〕手取教会〔問合せ先〕☎096・969・79・0015大江・﨑津・本渡教会主任、浦川務神父

編集後記

「ミサ説教の長さは10分以下に」とは、フランシスコ教皇からのメッセージです（カトリック新聞2月12日号）。

先日ネットで目に留まった記事には「7色の信号があったらどう感じますか。『紫？どんな意味だったけ…』と。「赤青黄」で確かに端的で覚えやすい。つい話す量が多くなる私には耳が痛いところです。

それでも…手伝いもせず姉のマルタをイライラさせたマリアは、イエス様のことばを「もっと聴きたい、いつまでも聴いていたい」と願い、そのそばを離れなかったのではとも思うのです。

教皇様のメッセージには「心を震わせるのはキリストです」ともあります。自身の主張でなく主と出会わせるために、かつ時間は感じさせずに人を魅了しながら話す。私の努力目標です。（W）

What am I seeking in the mass?
私がミサに求めるものは？

Maria Isabel G. Jaro（the Philippines）

As said in the First book of the Corinthians 14:39, “Therefore, brothers, desire earnestly to prophesy, and don't forbid with other languages”. Moving to Japan has never been an easy task, and everything is susceptible to change which also includes the environment surrounding the Church. In comparison to the Philippines, it is noticeable that Japan is not predominantly Catholic, but that does not mean that its Catholic community is not just as devoted. When attending Japanese mass, you can feel the solemnity and the reverence that the Japanese have for God and the Church community. You can feel how Japanese people devote themselves to God even outside the vicinity of the church.

Attending the English mass here in Japan is also a change that came with moving here. One would think that it would stay the same, but it is very surprising how wrong this assumption may be. English mass here can be summarized in one word: Diverse. It is very common for people of different races and cultures to come together to be able to hear mass. It brings communities together and helps bring everyone closer to God. Having that additional sense of community on an international scale, brought about in a local church in a foreign country, offers a sense of humility and unity within the mass and deepens our connection with God through deepening our connection with others.

The aforementioned verse encourages the thought of yearning for a connection with God through mass, regardless of the language that it is presented in. This verse represents our determination of going to mass, regardless of language, location, or environment. Going to mass gives you the chance to have a talk with God in His House, in His Presence. Both Japanese and English masses give you that connection to God through the community. They both offer the mass in a revered devotion to Christ and they both recognize the importance of listening to the Word of God. Having mass in this foreign environment does not and should not change how we as Catholics, feel toward Christ. It should strengthen our hearts and our devotion. We should be seeking out the Word of God, no matter the circumstances, rather than waiting for it.

フィリピンに比べると日本のカトリック信者は圧倒的に少ないです。でも、日本のミサに参加すると、共同体の熱心さ、神への厳粛さ、そして敬虔さを感じることができます。英語ミサにも参加していますが、そこは「多様性」を経験する場です。人種も文化も違う人たちが集まるのは当たり前のことです。様々な国の人たちと共同体意識を持つことは、ミサの中で謙遜と一体感をもたらしてくれます。そして、ミサに参加する人たちとつながりを深めることが神へのつながりを深めることになります。

幼児洗礼を教会共同体で祝福

日本語のミサも英語のミサも、共同体を通して神とのつながりを与えてくれます。どちらのミサも敬虔な気持ちでミサを捧げ、神の言葉に耳を傾けることの大切さを分かっているからです。外国という環境でミサに与ることによって、キリストに対する気持ちが変化することはないし変えてはいけません。心と献身の気持ちが強められなければなりません。私たちは、どんな状況においても神の言葉を待つのではなく求めるべきなのです。

10 代～40 代のみなさま
こんな悩みをお持ちでないですか？
相談は無料です。
必要に応じて専門機関の情報提供もいたします。ひとりで悩まずに、お気軽にご相談ください。秘密は厳守します。

安心してお話が出来る人をお探しの方へ。
メール：hanahanahimawari2020@gmail.com
☎：080-4735-6971（9:00－21:00）
※対応できないときもあります。
※ 原則 1 回 30 分です。
LINE 右記 QR コード
―ぷろじぇくとHana―
ぷろじぇくとHanaは、社会福祉士・看護師・シスターなどが在籍している、礼拝会を中心としたグループです。

福岡教区セクハラ対応窓口

セクハラを受けたら、見かけたら、ご相談ください。ひとりで悩まず、早めに相談

セクシュアル・ハラスメント相談窓口
電話　080-2694-4182
受付時間　月～金（祝日を除く）
10:00 ～ 12:00　13:00 ～ 16:00